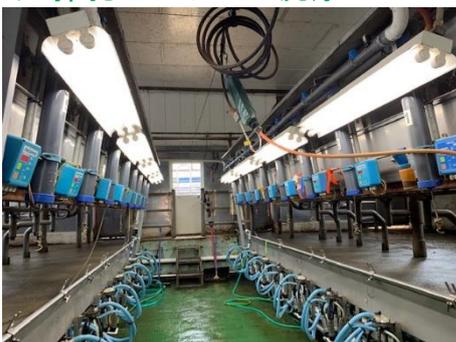


あしよろ・ハードサポート通信

1番草収穫は比較的天候に恵まれました。序盤は昨年並みの収量で物足りない傾向でしたが、6/25を過ぎるころから例年並み・例年以上の収量を確保できた印象です。

◆ 搾乳システムの洗浄



ミルカーとパイプラインの洗浄に不備があると、バルク乳の生菌数の上昇や、搾乳機器の消耗品部分の早期劣化、場合によっては乳房炎の増加につながります。

搾乳前殺菌、搾乳後の予備洗浄、アルカリ洗浄、殺菌洗浄／酸性リンス洗浄／すすぎ。それぞれの工程の目的をおさらいします。

◆ 搾乳前殺菌

搾乳前にラインを殺菌します。殺菌剤（次亜塩素酸ナトリウム）使用のポイントは「濃度：200ppm」と「温度：43℃前後の温湯」です。高温になるほど塩素が揮発し、殺菌力が落ちるため要注意です。殺菌液は2分以上循環させます。

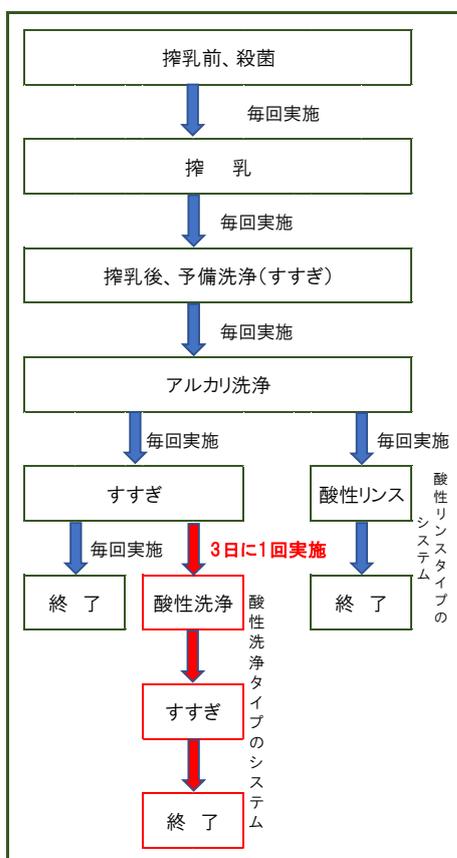
熱湯消毒する酪農場もあるようですが、湯温は長いラインを通る間に必ず下がります。厳寒期も同様です。確実な衛生管理のため、殺菌剤の使用を推奨します。

◆ 搾乳後のすすぎ（予備洗浄）

搾乳後はすぐに、40～50℃のお湯ですすぎます。これより低温だと乳脂肪が固まる恐れ、高温だと乳タンパク質が変性する恐れがあり、ライン内の雑菌繁殖の原因になります。

◆ アルカリ洗浄、酸性洗浄、酸性リンス洗浄

乳脂肪、乳タンパク質を分解するため、アルカリ洗浄は毎搾乳後に実施します。排出時に湯温38-40℃以上となるよう、60-80℃の湯にアルカリ洗剤を溶かして10分間循環させます（湯温が下がるほど洗浄効果が落ちます）。洗浄後はお湯ですすぎます。



◆ 酸性洗浄

ミネラル分除去のため、3～4日に1回、アルカリ洗浄後に酸性洗浄を実施します。60-80℃の高温で循環洗浄します。正しく洗浄しないと乳石が溜まる原因になります。

◆ 酸性リンス洗浄

酸性リンス洗浄タイプのシステムでは、アルカリ洗浄後、毎回、酸性リンス剤を溶解したぬるま湯で洗浄します。水すすぎは不要です。通常の酸性洗剤では代用できないため、システムに対して適切な酸性リンス洗剤を選んで使用してください。

自動洗浄システムが普及し、洗浄不良トラブルは少なくなってきましたが、それでも突如の生菌数上昇に見舞われることがあります。洗浄のポイントは「水量」、「洗剤濃度」、「湯温」、「時間」です。給水口が詰まっていないか、洗剤容器や自動吸い上げは上手くいっているか、すすぎ水がきちんと排出されているか、ボイラーに異常がないか、スラグ流を送るエアインジェクターが故障していないかをチェックします。乳房炎牛によって生菌数が増えることもあるので、牛の状態もご確認ください。（久富聡子）

.....
・7月24日（水）11:00～ 魁！銀河塾を開催します。テーマは「繁殖サイクルとホルモン」、「肉牛の基礎知識」で、市川雷太が講師を務めます。

・新しい担当者をご紹介します

船久保 雄二（ふなくぼ ゆうじ）

新潟県出身。飼料メーカーへ入社し、飼料販売部門へ配属される。関東エリアと北海道エリアの現場経験後、2018年9月にハードサポートに入社。現在、旭川に駐在し、道北エリアを担当中。

外では働き盛り35歳、家では4児の父として奮闘！
足寄の皆さまにとって、良い相談役になれるよう
尽力いたします！



・退職のご挨拶

7月末でハードサポートを退職します。足寄の皆さんには公私に渡り、大変お世話になりました。町内を広く巡回する中で、個々の経営だけではなく、「地域」を考えることができるようになったと感じています。9月から、カナダ・アルバータ大学の大学院で乳牛栄養学の修士号取得を目指すことになりました。何かの折にはお気軽にご連絡ください。本当にありがとうございました。 久富聡子